



六  
歳  
首



2850





414  
A1590



大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

大隈重信 謹テ明治八年歳入出豫算表ヲ製シ  
 之ヲ上ル此表ハ改正年度ニ準依シ本年七月ヨリ明年  
 六月ニ至ルマテ一週間ノ會計ヲ按算スル所ノモノナ  
 リ而シテ此表ヲ上ルハ正ニ本年七月ノ始ニ於テスヘ  
 キニ各廳ノ經費本月始テ確定ニ至リ府縣ノ由報定期  
 ニ後ルモノアリ之ニ加フルニ事ノ創始ニ係ルヲ以テ  
 審査精致力ヲ勞スル甚シク咨問往復日ヲ涉ル久シ是  
 ヲ以テ竟ニ今日ニ至ル幸ニ其遲緩ヲ咎ルト勿レ重信  
 曩ニ大蔵事務總裁ノ職ヲ辱シ時ニ方リ呈禀セシ明治

大蔵省



六年豫算表ヲ以テ權輿トシ尔来年々相踵テ作為セサル  
ルヲシト雖モ計表ノ様式或ハ紊錯ニ失レ調理ノ方法  
或ハ踈鹵ニ陷ルモノナキニ非ス是レ蓋レ措思ノ周カ  
ラサルニ非ス立算ノ密ナラサルニ非スト雖モ其遵依  
標據トスヘキモノ齊整鞏固ナラサルニ由リ遂ニ以テ  
斯ニ至ル此レ重信カ恒ニ以テ憾トセシ所ナリ今ヤ然  
ラス會計年度ヲ更正シ出納規程ヲ釐革レ之ニ次テ槩  
算表ヲ開申スルノ法ヲ設ルヲ以テ我會計ノ事務大ニ  
舊觀ヲ改メ其整ルヤ井然秩然細目ノ大綱ニ隨テ自  
ラ舉リ枝葉ノ本幹ニ附テ紊レサルカ如キヲ見ル故ニ

豫算ノ如キ亦自ラ法ノ遵フヘキア實ノ徴スヘキア  
リテ收支ヲ科分シテ其歸スヘキ所ニ皈セシメ贏縮ヲ較  
計シテ其知ルヘキヲ知ルニ難カラサラシム而シテ方  
ニ始テ沿襲ノ弊ヲ祛キ調理ノ要ヲ盡ス<sub>一</sub>ヲ得タリ矧  
ヤ此表ヲ作ルニ當リ務メテ精緻ヲ要シ尤モ踈鹵ヲ戒  
ル所ハ其或ハ體制完美計算詳明ニシテ紕謬ナキニ庶  
幾ラン因テ惟ク其始ノ成テサルニ非スシテ其終ノ敗  
レ易キハ人事ノ常態ナリ其源ノ澄マサルニ非スシテ  
其流ノ濁リ易キハ財政ノ通患ナリ豫算ノ要タル即チ  
濫文ノ途ヲ杜キ節用ノ念ヲ固フスルニ在リ故ニ苟モ



斯意ヲ体セス	斯患ヲ警メス	志稍ク滿チ	氣漸ク弛ニ	既
ニ已ム	ヘクシテ已マサルノ	請求ヲ許ス	アリ又省クヘ	
クシテ省カサル	ノ用費ヲ増ス	アリ之ヲ終ルニ	上溢下	
漏遂ニ此定ムル	所ノ數額ヲ踰越スルニ	至ラハ設令此		
表ヲ使テ計算精密ニ	シテ體制完美ナラシムルモ	亦唯		
虛名ノ具文架閣ノ簿冊タルニ	過キスシテ到底豫算ノ			
成效ヲ見ルナカラント	是レ固リ過慮ニ涉ルト雖			
區々ノ微衷箱黙スルニ	忍ヒス此表ヲ上ルニ	臨ニ併テ		
愚見ヲ列シ以テ鑒裁ヲ	祈ル希クハ變理裁成ノ道ニ	於		
テ萬一ヲ裨補スル	アラシク			


大歳省



明治八年歳入出豫算表例言

茲ニ會計年度ヲ更正シ出納規程ヲ釐革セシ旨趣ヲ略  
陳シ以テ此豫算ノ根據スル所ヲ辨明セン夫レ諸税ノ  
徵納ト諸費ノ支給ト總テ曆年十有二月ノ間ニ於テ其  
事ヲ完了スルモノニ非ス例ヘハ地租ノ翌年五月ヲ以  
テ皆納ノ期トシ秩祿ノ同シク五月ヲ以テ皆給ノ期ト  
スルカ如キ是ナリ是レ則チ會計年度ヲ改定シ歳入歳  
出共ニ之ヲ此間ニ收束セント欲スル所以ナリ而シテ  
經費一切ノ供給ハ毎年六月ニ至ルマテニ周備完結シ



次年ニ踰越スルヲナキヲ要スト雖モ其實際ヲ視ルニ  
殘額ヲ還納スルモノアリ或ハ不足ヲ補フカ為メニ増  
給ヲ請フモノアリ且租税ノ如キモ亦事故アリテ納期  
ニ後ル、モノナキニ非ラス是ヲ以テ單ニ一周年ヲ異  
ル毎ニ其出納ヲ關鎖スルキハ歳入歳出ノ額ヲシテ共  
ニ岐分文離セシメ其全計ヲ総理スルノ極メテ難キヲ  
憂フ是レ其又甲部乙部ヲ置テ之ヲ清完シ以テ年度ノ  
齟錯ヲ防キ兼テ他日ノ決算ヲシテ出納ノ實際ト對同  
恭照セシムルノ便アルニ資ル所以ナリ今此豫算表ヲ  
亦以テ正ノ本旨ニ因據シ收支ノ現状ヲ考覈シテ以テ

之ヲ豫定スルカ故ニ其完全精確ナル復タ曩昔ノ比ニ  
アラス此レ之ヲ基礎ノ鞏固ニシテ家屋ノ傾歎ナキニ  
譬フ豫算ノ法固リ宜ク此ノ如クナルヘキナリ且夫曩  
ニ豫算表ヲ製スルヤ前年ノ末尾ニ於テ現存セシ金穀  
ヲ集計シ名ケテ越高ト云ヒ之ヲ該年ノ歳入ニ併算ス  
ルヲ以テ流例トナセリ然レ甲乙ノ二部ヲ以テ一會計  
年ノ歳入出ヲ統理セシムルハ甲部既ニ畢ルト雖モ  
其餘ル所ノ金穀ハ乙部承ケテ猶ホ之ヲ管主シ次年甲  
部ニ於テハ假令一時ノ流用ヲ得ルモ未タ還ニ數ヲ悉  
シテ已レノ所轄ニ歸セシムルヲ得ズ矧ヤ該年ノ歳出



ハ該年ノ歳入ヲ以テ辨給シ出入相顧ミ務メテ汎濫ヲ  
戒メ前年ノ贏余如何ヲ問フコトヲ要セサルハ固リ量為  
ノ善謀ナルニ於テオヤ故ニ準備ヲ除キ常用ノ越高ナ  
ルモノハ自今以後復タ之ヲ掲載セス然レトモ甲乙相  
承ケ既ニ二周年ヲ経テ出納決結ニ至リ而シテ後尚ホ  
幾多ノ贏余アレハ則チ此ヲ真ノ越高トシテ準備ノ控  
額内ニ插入スルノ定規ヲ設ケタリ而シテ準備ト常用  
トニ論ナク其實際出納スル所ノモノニ至テハ果シテ  
此豫算ト差異ヲ生スルナキヤ否ヲ詳明ニスルハ亦是  
會計ノ要務其之ヲ忽セニスヘカクサルヤ論ヲ待タ

ス故ニ將ニ年ヲ逐テ正確ナル決算表ヲ作り之ヲ公示  
スルアラントス

一 本年七月ヨリ明年六月マテ會計一周年ノ歳入歳出  
及ビ準備金ノ收支ヲ精細按算シテ第一表第二表  
第三表トス而シテ其第一表ハ第二第三ノ両表ヲ合  
算シテ通覽ニ便ニシ册後ニ付スルニ國債紙幣ノ二  
表ヲ以テスル如キ皆舊例ニ沿ル所ナリ  
一 歳入中地租ノ類今日ニ在テ之ヲ率算スルニ豫メ各  
地ノ豊歉ト米價ノ昂低トヲ確知スル能ハサルヲ以  
テ各地方ヨリ開申セシ概算表ニ據リ前三年ノ平準



ヲ取り以テ收入シ得ヘキ所ノ項額ヲ算定セリ而シ  
テ方今税法ノ改正ニ際シ宮城山口其他諸縣ノ如キ  
公既ニ地券法ヲ用ルモノアリ其他本年將ニ功ヲ畢  
シトスルモノアリ且本年二月公布セシ雜稅ノ實地  
ニ於テ存廢ヲ異ニスルモノアリ乃チ斯等ノ變更ニ  
因リ其多寡増減スル所ヲ參互考摺シ一モ是ノ調査  
ニ漏ルハナカラシム故ニ意外ノ變故アルニ非サ  
ルヨリハ其現收ニ大差ナキハ決然疑フヘカラス  
一酒類郵便印紙其他ノ諸稅ニ於テハ本年税法ヲ更正  
スルモノアリ又其額ノ年ヲ逐テ増進スルモノアル

由リ前一年或ハ一期ノ收額ト現時ノ畧狀トヲ參  
酌シテ算定セシモノニ準據スルハ大抵前條ニ異ナ  
ルナレ但本年二月公布セシ煙草稅ノ如キハ明治九  
年ヨリ施行スルモノニシテ實驗ノ徵スヘキナキヲ  
以テ姑ク產出ノ量及ヒ其價位ヲ按量シ以テ半年間  
ノ收額ヲ折算ス度量衡稅ノ如キ之ヲ按算スル亦煙  
草稅ニ全シト雖モ其收稅ハ本年七月ニ起ルヲ以テ  
全年分ヲ計上ス而シテ此二項ハ共ニ務メテ少數ニ  
據ルカ故ニ其現收ニ至テハ必ス幾多ノ増加アル知  
ルヘキナリ



一賞典祿稅及ヒ訴訟紙代二項ハ本年ヨリ收入スヘシ  
ト政府既ニ議定セリ故ニ今之ヲ表出ス賞典祿稅ノ  
如キハ之ヲ算出スルニ家祿稅ノ例ニ據ルト雖ヒ他  
ノ一項ハ豫メ其現收ノ確知シ難キヲ以テ務メテ少  
數ニ據ル猶ホ煙草稅及度量衡稅ノゴトシ  
一連年準備ニ於テ收支セシ鑛山鑿道電信製作四寮ノ  
收入及ヒ其經費ハ爾來常用ノ出納ニ屬スヘシト本  
年七月政府ニ於テ之ヲ議定セリ故ニ之ヲ常用中ニ  
計上シ其費額ノ如キハ工部省定額ノ内ニ含有シ復  
タ之ヲ分掲セス

一鑛山等ノ外尚ホ官ノ工事ニ屬スル收入アリ即チ歲  
入第八款ニ掲ケタルノ類是ナリ而シテ内務所管以  
下ノ三項前期豫算表ニ於テハ各廳收入ノ内ニ載レ  
一々其數ヲ明掲セスト雖ヒ今茲ニ鑛山等ノ數項ヲ列  
舉スルニ由リ其相類似スルモノヲ拾輯シテ此一款  
ヲ設クルト表ノ如シ  
一家祿賞典祿及社寺祿ハ本年ヨリ米額ヲ改メテ金額  
トス故ニ各地石代平均ノ方法ニ準據シ以テ支給ノ  
額ヲ計上ヤシナリ準備ニ挿入スル奉還祿ノ如キモ  
亦然リ



一名廳ノ經費ハ其申報ニ據リ事業ノ興廢ニ就キ其増減ヲ斟酌シ或ハ往時ノ現費ニ比較シテ確定スル所ノ數ヲ計上セシカ故ニ其過不及ノ差違ナキハ固リ疑フヘカラス而シテ臨時費ノ如キハ汎ク各廳ノ為メニ設ケスレテ其額中自ラ定額額外臨時ノ區分アリテ各之ヲ以テ其用度ヲ措辦スヘキモノトス故ニ營繕其他異常ノ用途アルモ毫モ此定限ヲ過越スルコトヲ許サハルヘシト既ニ政府ノ裁定セシ所ナリ前期表出セシ驛遞勸業諸費ノ内務省ニ於ケル紙幣證書製造費等ノ大藏省ニ於ケルカ如キモノ亦皆之ヲ

詠廳ノ額内ニ算入スルヲ以テ別ニ掲出スルヲ要セス

一府縣ノ費額モ官省ノ例ニ倣ヒ臨時費ニ至ルマテ總テ其額内ニ於テ科分スルアリト雖モ亦一々之ヲ分掲セス

一百般ノ經費各其擬スル所アリテ既ニ欠漏ナキカ如シト雖モ尚ホ其不虞ヲ慮リ之ヲ備ヲ為スハ財政ノ周完ヲ求ムルニ於テ又虧ク可カラサルモノトス是レ其概數ヲ計出シテ別ニ非常豫備ノ目ヲ立ル所以ナリ



一家祿奉還ノモノニ資金ヲ給スル方法ハ本年七月ノ  
公布ヲ以テ之ヲ廢スト雖此公布以前既ニ請願セ  
シモノハ舊ニ仍テ給與セサルヘカラス是レ其金額  
ヲ豫算シテ此表ニ掲出セシ所以ナリ  
一第一第三表ノ末尾ニ掲ケタル府縣豫備現在高ハ曾  
テ府縣ニ交付セシ所ノ豫備金ナルモノニシテ急需  
アレハ其流用ニ供シ隨テ減スレハ隨テ填メ尚ホ各  
地ニ現存セリ今之ヲ收メテ金庫ニ集合スルニ非ス  
ト雖此茲ニ其數ヲ付録シ以テ官ノ儲蓄タルヲ示ス  
ノミ

一内國債ノ總額ヲ算スルハ前期表出ノ數ヨリ増加シ  
テ若干万圓ニ至ルモノハ是レ他ナシ其半年間ニ於  
テ既ニ多少償却セシモノアリト雖此更ニ金札引換  
公債證書貳万五千圓ト秩祿公債證書貳百八拾壹万  
八千貳百貳拾五圓トヲ發出セシニ由テナリ  
一國債表ハ本年償却スヘキ數ヲ掲ケ而テ後其殘債若  
干ヲ示スヲ以テ例トス然レ此ノ如クナルハ實  
際償却ノ多寡ニ隨ヒ翌年表出ノ時ニ至リ其數變動  
觀者ヲシテ或ハ誑惑セシム故ニ今ヨリ毎年七月ノ原數ノミ  
ヲ掲ク若シ本年償却スヘキ數ヲ知ラントヲ要セハ



第一表歳出ノ第一欸ヲ見ルヲ以テ足りトスヘシ

一各種紙幣ノ交換未タ結落ニ至ラスト雖其換了セ

シモノニ就テ之ヲ精算スレハ表上既ニ若干ノ減数

ヲ得タリ是レ蓋シ新鈔ニ換エスシテ直ニ支消スル

モノト舊鈔ノ散佚シテ既ニ烏有ニ属スルモノアル

ニ由テナリ

一表中掲載セシ準備越高及ニ國債紙幣等ノ數已ニ今

日ニ在テハ多少ノ變動アリ例ヘハ内國新公債ノ既

ニ八月ニ於テ若干万圓ヲ償還セシ類ノ如シ然レモ

其數ノ前期ニ接續ヤンコヲ要スルカ故ニ此等ノ額

ハ總テ七月一日ノ現數ニ據テ計算セル所ノモノナ

リ



